

◆令和3年度を迎えて◆



学校法人中村学園

専門学校静岡電子情報カレッジ

静岡福祉医療専門学校

理事長・校長 中村 徹

先ずは、桜花爛漫の良き日に専門学校静岡電子情報カレッジ36期、静岡福祉医療専門学校24期の入学生、また、進級した学生諸君、おめでとうございます！！

今年は年初から「新型コロナウイルス」に「変異ウイルス」と感染症拡大防止策により、学校行事も自粛モードに移行しての対応を余儀なくされている。1日も早い感染収束を期待し、我々も普通の生活に「予防」、「3密を避ける」、「5つの場面を回避する」等の最大限の認識に、努力と協力をお願いしたい。

先ずは新入生オリエンテーションにおいては、毎年恒例の御殿場宿泊研修は取りやめて、学内における対面、オンラインやリモートを活用した活動とする。

また、入学式および始業式、後援会入会式は予定通り4月10日(土)に学外の会場にて時間短縮の上、挙行する。感染防止対策を考慮しながら、4月5日(月)全学年前期オリエンテーション開催、前期講義は2,3年生4月6日(火)、新入生4月12日(月)(視能訓練士学科は4月6日)より対面形式と一部学内リモート併用にて予定通り開講する。

そして、気候も急に温かな春が来たと思いきや、「寒の戻り」で寒い日も続き、静岡市の開花宣言も例年になく遅かった。三寒四温のこの時期、「新型コロナウイルス」感染症対策とともに体調管理には十分留意し、有意義な学校生活をおくってください。

さて、この4月は就学に当たり、しっかりした「目標」を立て、学校生活においては学業を通して、日々の努力から「自己実現」を図るんだ、という強い心構えを確認しなければならない時期なのです。

そして、新入生は今までの学校生活では義務教育的に与えられた学習から、これからは本学から提供される「学びの場」で、自分自身の意志と意欲で「自ら学ぶ」のです。学内環境では講義、演習、実習などで、試行錯誤の中からそのプロセスを学び、学外では「産学連携教育プログラム」のインターンシップ、ゼミナール、施設実習・臨地実習、卒業研究、ケアスタディなどのプログラムからも「こだわり」を

持って、「自ら考え、カタチにすること」を身につける。これが社会に出てからの問題発見・解決力や壁を乗り越えることのできる皆の「底力」となるのです。

要するに、学校生活を有意義におくり、「なりたい自分になる」ためには、この時期に自己の「キャリアデザイン」のイメージを確認し、この具現化を図るために、「こだわり」をもって、「自らが学ぶ姿勢」にかかっているのです。

また、志を抱き波濤を越えて入学された7か国の留学生の皆さん、遠く母国を離れて文化、風俗習慣、気候風土の異なる土地で就学に勤しみ、生活をされるのですから、慣れないことが多いと思いますが、日本人学生や教職員、地域の人々との交流を通して意義深い学生生活を送ってください。

そして、社会人入学された皆さんには、就学への強い意欲に敬意を表しますとともに、どうぞ今後の人生における多様な生き方の糧を得ることを期待します。

1. 学校生活に確固たる目標を持つ！！

皆が学ぶこのキャンパスは、極めて恵まれた環境にある。JR静岡駅南口から徒歩数分、通学やアフタースクール等、学生生活の範囲を広げるのに便利な立地条件だけでなく、学内ネットワークや諸処の最先端施設・設備、バリアフリーキャンパス。この中で「友情を育み」、「なりたい自分になる」という素晴らしい目標達成に向けての努力に期待する。

本学創立者の教育理念である高い理想に基づく「挨拶を基調とした全人教育」は、本学園教育の根幹をなすものです。学校生活においては学習を通じて、社会においては仕事を通じて「自己実現を図る」という教えをしっかりと身につけ、このような教育理念を掲げる本学で学ぶことに「誇り」と「これだけのことをやったんだ！」という「自信」を持って就職活動に、社会に己を売り込んでください。

2. 新入生御殿場宿泊オリエンテーション

今年学内キャンパスにてオリエン実施

「なりたい自分になる」ために本学の学生としての心構えの徹底と一人でも多くの「心の友」をつくることを目的とする。

本学の「全人教育」と「よりよい就職をするために」の具現化に向け、学生間で本学への入学目的を確認しあい、その達成を誓い合う。この目的を同じくする仲間同士でのオリエンテーション活動の成果は、今後、目的達成のための学校生活とするのです。

また、人生における人的財産となり、お互いに切磋琢磨できる「心の友」を、この専門学校生活の中で一人でも多くつくり、「友情を育み」大切にしてほしい。

「朋友は 我が喜びを 倍にし、悲しみを 半ばにする」

これからの君たちの日々の生活が、「感動」を求め、「充実感」、「達成感」ある生活であることを期待する。

3. 目指せ！CANスカラシップ

学生リーダー養成「ヒトづくり」と「経済的支援」

本学校訓にある「“Why”人間の育成」の具現化のため、学内外の「自分磨き」の様々な活動を通して、「企画力」「洞察力」「統合力」「問題発見・解決力」等を身に付け、「自ら考え、問題解決」でき、社会に出てから組織の中で一歩前に出てリーダーシップが発揮できる人材養成を目的とした制度です。活動内容により学外活動を評価されたN-CapAと学内活動中心のN-CapBに選考されます。詳細は「学生の手引」参照。我こそはと思う学生はクラス担任に「CANスカラシップ自己推薦文」を添えてエントリーして下さい。学業・学校生活等を考慮して選出されます。

4. 我々を取り巻く社会的背景

時代は大きな転換期を迎えている。

さて、私たちはこの1年以上に亘り新型コロナウイルス感染症の蔓延に見舞われ、大変な不便さを余儀なくされてきました。人々の行動は制限され、経済は急激な縮小を強いられている状況にあります。本学においても、昨年当初から新生活様式による学校生活により、入学式や新年度オリエンテーションだけでなく、就職活動をはじめ当たり前のことが当たり前でできない大変な新年度のスタートを切ることになりました。授業形態も実習・演習は可能な限り対面授業で、講義授業は日課変更や自宅履修により国試受験には事欠かない履修環境整備、また施設実習は受入施設が半減また直前に実施施設変更を余儀なくされる等感染防止と教育活動の両立を目指してきました。

この感染症の特異性は、感染によって症状が出る前に感染力のピークがあり、無症状感染者が感染力を持つと言われています。これは、すべての人々が他人に感染させる潜在的な可能性を持つということを意味します。だから、今後の社会生活の中で他人を感染させないという視点から「他人をいたわり」、「思いやる気持ち」を持つ感染予防策を通して、「豊かな対人関係を構築」するのです。

そして、このコロナ禍「新生活様式」は社会のデジタル化を加速させ、世界的なインターネットが生み出した膨大な情報を、AI技術によって社会が活用していく新たな社会像が提起され、価値がモノから情

報に移り、情報資本に立脚した社会への転換が起こるとされてきました。皆がこれから活躍する社会は、デジタルを活用し、AIによる情報を価値化することで優位な競争力を生む社会です。

ゆえに、我々がこの社会で生きていくためには、これらの変化への対応力と多様性への適応力を身に付け、「新たな知識を常に取り入れていくこと」：ブラッシュ・アップが日々の生活の中に求められているのです。

これから進み行くべき社会は、AI、IoTなどの高度な技術革新の成果と、「こころ」という人間の本質的特性との共存時代です。

5. 社会が求める人材像

資源が乏しい我が国は、超少子高齢化、人口減少に伴う労働力人口の減少により、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。

そこで、「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となる。

- ① 産業構造の変化に対応できる「実践的な職業能力を有する人材」
- ② 将来にわたり「付加価値を創出する質の高い人材」
- ③ 労働力のグローバル化が進展するなか「国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材」などの社会基盤を支える「ヒトづくり」が急務という。

6. 本学は職業教育69年の伝統を持つ実践的職業高等教育機関

本学は昭和の戦後復興の中、この静岡の地において昭和26年「手に職をつけたい」という女性の強い要望に応え、服飾分野の職業教育機関として創設者中村忠雄先生が

中村技芸専門学院(静岡服飾専門学校)を設立。実践的職業教育一筋に69年間に亘り、地域に有用な人材を輩出し、長い歴史と伝統を持った職業人育成の高等教育機関です。

(1) 専門学校静岡電子情報カレッジ

専門学校静岡電子情報カレッジは創立35年、学校法人中村学園がコンピュータ社会到来による人材ニーズに応え、昭和61年にJR静岡駅南口徒歩約3分の南町ITキャンパスにコンピュータハードウェアの静岡電子専門学校とソフトウェアの専門学校静岡スクールオブビジネスを設立。平成10年、両校を統合して現在の「専門学校静岡電子情報カレッジ」が誕生。IoT、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携プログラム」等の「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでいる。ICT・ゲーム、映像・音響エン

タメの専門特化された知識・技術、技能の教育に他分野の付加価値を融合し、新価値を創造する先端的な教育システムを先取りし、社会の人材ニーズに応えています。

(2) 静岡福祉医療専門学校 併設保育園「キッズハウスひかり」

静岡福祉医療専門学校は創立23年、少子・超高齢化社会の「質の高い福祉・医療の人材づくり」と、平成10年バリアフリー森下町キャンパスを構築。人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「施設実習・臨地実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身につけなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を自らが認識できる教育プログラムを構築している。

平成14年には少子高齢化社会の人材ニーズに応え、静岡県内初の修業年限3年で介護福祉士の課程を履修したうえに、社会福祉主事、社会福祉士の課程を併せて履修し、介護系と社会福祉系の国家資格取得を目指す画期的な「総合福祉学科(3年制)」を設置。

また、平成21年には待機児童問題解消に伴う「保育園・幼稚園、児童養護施設、認定こども園」等における保育士不足という社会的な人材ニーズに応え、豊岡短期大学との教育連携により保育士および幼稚園教諭、社会福祉主事の国家資格等の取得を目指す「子ども心理学科(3年制)」を設置。そして、平成29年度指定保育士養成施設として認可。また、身近に子どもたちに寄り添える環境として学内付帯実習施設として平成23年10月に「子育て支援キッズハウス(託児所)ひかり」を南町キャンパスに設置。平成29年4月「子ども子育て支援新制度」施行と静岡市の要望により、託児所から認可小規模保育園に移行し、「保育園キッズハウスひかり」となる。

そして、平成30年4月静岡県眼科医会からの要望に応え、厚生労働省視能訓練士養成施設、静岡県内初「視能訓練士学科(1年制)」(令和4年4月に3年制に移行)を新設した。

(3) 姉妹校第一ひかり幼稚園と併設保育園「キッズハウスよいち」

昭和46年静岡市葵区与一5丁目に学校法人中村学園と第一ひかり幼稚園新設、昭和47年開園。また、待機児童対策としての静岡市の強い要望により平成30年度併設保育園「キッズハウスよいち」を新設。子ども心理学科の研修・実習先、雇用先として教育連携しながら地域の「子ども子育て支援」に従事している。

(4) 創立以来就職決定率100%を誇れるのも、当学園の教育内容に対する社会的評価といえる所以であると自負し、専門学校創立以来35年、すでに5,000名以上の有用なる人材を社会に送り出している。

7. 本学は文部科学大臣より下記の3認定を受ける

- (1) 「職業実践専門課程」平成26年4月より文部科学大臣認定を受ける
- (2) 「キャリア形成促進プログラム」令和2年3月に文部科学大臣認定を受ける
- (3) 「高等教育の修学支援新制度(授業料無償化・減免、生活給付)」令和元年10月に文部科学大臣認定を受ける

経済的に就学が困難になったら先ず相談を！

(1) 「職業実践専門課程」とは、専門学校の中でも修業年限2年以上で「職業に必要な実践的かつ専門的能力を育成する」ことを目的とした「実務に関する実践的、専門的な能力を身に付けるための教育環境が整っている」課程として、「職業教育水準の維持・向上」を図る職業教育人材育成プログラムである。

これにより、専門分野に関する企業、団体、業界との協力体制が確保され、関係業界と連携した実習・実技の授業がカリキュラムに組み込まれ、学校全体で業界との深い連携体制を築き、最新の実務知識を身に付けられるサポート体制や現在の雇用市場では即戦力が求められ、現場で働ける力を身に付けることができ断然就職に有利！！

- ① 業界(企業や病院、施設など)と連携して職業に必要な能力が身に付く！
- ② 業界で実習・実技・実験などの実践的教育を受けられる！
- ③ 学校内の授業でも、業界の専門家が講師である。
- ④ 業界との連携により、学校関係者による評価・情報公開をしている。 など

(2) 「キャリア形成促進プログラム」とは、専門学校の中でも修業年限2年未満の主に社会人の新たな専門スキルや学び直しの場を提供する専門学校の「職業教育水準の維持・向上」を図る職業教育人材育成プログラムである。

(1)及び(2)とも、社会人(雇用保険に2年以上加入等の条件あり)にはより有利で、この制度認定学科に学ぶ場合、厚生労働省の専門実践教育訓練給付制度の適用を受け、修業に係る費用の上限75%までが国から給付される。

(3) 「高等教育の修学支援新制度(授業料無償化・減免)」とは、経済的な理由で学びの機会を得ることができないとか、学びを中断することがないように、入学金は16万円、授業料は59万円/年(給付金額は家計収入等による)まで国が修学の機会を支援してくれる制度。入学後は勿論、進学を前提として高校在籍時にも予約申請ができる。

8. 地域に開かれた魅力ある専門学校づくり

本学のもう一つの教育目標である『地域に開かれた専門学校』の活動として、関連する企業等での「産学教育プログラム」や「インターンシップ」、病院・福祉等の「ボランティア」、「レクリエーション」等の活動において、地域の方々との触れ合いを通して高い評価をいただいている。そして、今後も地域ボランティア活動や全国的ロボットやゲームコンテスト等へのエントリー等を通して「より地域に開かれた魅力ある専門学校づくり」を積極的に目指す。

9. 就職活動の面接指導：「己の人生を切り拓く就活！」

校長はじめ副校長、教頭、進路室長、教務課長、学科長等の管理職を模擬面接官とした採用面接練習に臨むに当たり、次のことをしっかり自分のものにしておくこと

- ①己を知れ：今までの人生で、また今後、身につけることができる「自分の売り」は何なのか、自分の就きたい職種につながるように纏める。
- ②相手を知れ：自分が就職を希望する企業、病院、施設等がどんな組織なのかをとことん調査・研究する。
- ③差異化を図る：私は他のエントリー者（求職者）と比較してここが違うんだ！と自分を売り込む準備をしておく
上記の3つから自分のことばで「志望の動機」と「自己PR」を創り上げる。
そして、最後に「仕事を通して、自己実現を図る」と結ぶ。
- ④その上で、「これだけやったんだ」という自信を持って、失敗を恐れず、胸を張って、自らの可能性を信じて、元氣よく「若さ」で勝負！！
“There is a will! There is a way!” 「ヤル気になれば道は開ける」

10. 社会に出てから「成功する人」:

- ①「感謝の気持ち」をいつでも表現できる人
- ② 誰に対しても明るく笑顔を忘れず、気持のよい元氣な「挨拶」ができる人
- ③ 物事を肯定的に考える（プラス思考）「ポジティブな人」
- ④ 日々の生活が、将来を見据え、「明確な目的意識」を持って行動できる人
- ⑤ 豊かな感性を持ち、「想像・創造」することが上手な人
- ⑥ 社会が評価する「スキル、アイデンティティ」を持った人
- ⑦ 人生のステージ毎に一人でも多くの「心の友」を持つことの出来る人
- ⑧ 相手の立場に立った「コミュニケーション能力」に長けた人

11. 「卒業生を囲む会」卒業生に感謝！！

電子情報は就職活動に既に入っているため4～5月、福祉医療は5～6月に開催予定。卒業生が仕事の時間を割き、また、有給休暇を申請し来校。在校生が各学科を代表する卒業生から「学校生活上のポイント」や「職種毎の社会の現状」、「就職活動のポイント」等の活きた指導を受け職業観、進路意識の高揚を図ることと、また、教職員も「本学の指導内容に対する現場からの助言」等を受け、その必要性に応じて学校生活、学生指導に反映する。

私たちは、卒業生の貴重な情報を今後の学校生活・就職活動に活かすことで、大事な時間を割いて来校してくれた卒業生に対する御礼とさせていただきます。

12. 海外研修・修学旅行

ICTの進展によるボーダーレスの世界市場、「異文化と価値観の違い」を体験し、グローバルな志向性、先進的な専門知識や技術を身につけることをテーマに実施。

専門学校静岡電子情報カレッジはICTやエンターテインメントのメッカ、アメリカ西海岸シリコンバレーとハリウッドで、グーグル、アップル、インテル等をはじめとする世界有数のIT企業本社やパラマウントフィルムズスタジオ、ユニバーサルスタジオ・ハリウッドで映像・音響の最先端テクノロジーとエンターテインメント性の見聞を広める。

静岡福祉医療専門学校は多民族社会における医療・福祉、教育分野における先端の地アメリカ ハワイカグアムで、多民族文化や伝統に触れ、貴重な体験や、ハワイカグアム大学の学生との交流セミナー(意見交換会)において、国際的視点に立っての有意義な研修を積むことができる。

必ずや今後のグローバル社会の中で大いに役立つ経験であり、日本の良さを強く感じ、友人との絆もより深め、よき思い出をつくる集大成だった。令和2年度はコロナ禍で静岡県内研修に移行、地元を知る良い機会となった。

13. 新入生保護者様 後援会入会にあたり

令和3年度新入生の保護者様、本学園後援会に入会いただきありがとうございます。

本学後援会は、後援会会則にもありますように、「学生に、より充実した学生生活を送ってもらう」という目的のもと、本学の教育と研究の両面で、就職活動をはじめコロナ禍においては予防対策、学生各種活動補助、入学式・卒業式に際しての援助、教育・研究環

境整備への補助、専門職業教育学会への参加、産学連携・学校連携等に関する支援など、多大なご尽力をいただいております。

については、学校と家庭の両輪で、学生たちを胸張って社会へ送り出すため、今後も本学園の教育内容をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

14. 新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドライン
感染しないためには自衛防止行動

1. 基本的な感染症防止対策の徹底

- (1) 石鹸による手洗いやアルコール等による手指消毒
- (2) マスクの着用：必要により2重マスク(ラッシュ時の公共交通手段等)
食事は黙って食べ、会話をするときはマスクを着用
- (3) ソーシャルディスタンス(身体的距離)の確保

2. 「3つの密」を避ける

- (1) 密閉：換気の悪い空間を避ける
- (2) 密集：多数が集まる場所を避ける
- (3) 密接：会話はマスク着用で相互に1m以上の距離

◎感染リスクが高い場面は避ける

- ① 飲酒をともなう懇親会等
- ② 5人以上、長時間の飲食
- ③ カラオケ 等

3. 毎日、朝・晩の検温を行い、体調管理に努め、行動履歴を日々記録する
4. 37度以上の発熱や風邪症状等がある場合は外出・登校せず、主治医等に電話連絡のうえ受診する 同時に必ず学校にも電話連絡すること
5. 新型コロナウイルスに感染した場合や濃厚接触者・接触者指定された場合は、速やかに学校に連絡をする
6. 接触確認アプリ等を活用する
感染防止の一環として、新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」等を積極的に活用する

以上